

保健環境研究所 50周年記念号の発刊によせて



福岡県保健福祉部長 隈本 英臣

このたび、福岡県保健環境研究所が設立から50周年を迎えるに当たり、関係各位の御支援、御協力に対し心から感謝申し上げます。

保健環境研究所は、昭和24年に、終戦後の混乱の中で結核や赤痢などの伝染病の蔓延防止を主命題に、福岡県衛生研究所として発足し、昭和48年には、福岡県衛生公害センターとして、現在の太宰府市に新築移転、さらに平成4年には、現在の保健環境研究所に改組し、今日まで、保健・衛生・環境分野の各種分析・調査・研究機能の充実を図ってきたところであります。

この間、卓越した分析技術により、本県の感染症対策や公害対策に大きく貢献してまいりました。特に、PCB混入による食中毒の分析調査やその分析技術を活用したダイオキシンをはじめとする有害化学物質等の人体影響の調査研究、並びに幅広い細菌学的知見を環境修復に結びつける研究など、先進的で高いレベルの取組がなされていると全国的にも評価されてきたところであります。

さて、近年、公衆衛生水準の向上や医療技術の進歩による平均寿命の伸長やライフスタイルの変化に伴い、がん・心臓病・脳血管疾患等の生活習慣病が増加するなど疾病構造も変化し、エイズやO-157などの新興感染症の発生や、科学技術の進歩に伴う新たな食品の開発、普及など、保健・福祉を取り巻く環境は大きく変化しています。

県といたしましては、未来に飛躍する豊かな福岡県をつくるため、県政の重要課題である「健やかで心豊かな社会づくり」を実現するため、数々の保健・医療・福祉施策を推進しているところであります。

保健環境研究所におきましても、「地域における科学的、技術的中核機関」として、これまで積み重ねてきた研究基盤を元に、専門性を活用した地域保健に関する総合的な調査及び研究を推進することが極めて重要であり、今後とも住民のニーズに対応した、研究・調査の充実を図ってまいりたいと考えております。

最後に、保健・福祉行政に対する関係各位の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成12年12月